

プラネタリウム & 天体観察会

～「星取県」で 昼も夜も星空満喫～

定員25名で実施中

1. プラネタリウム ☆平日3回、土日祝4回投影

さじアストロパークのプラネタリウムは、前半が専門職員によるライブトーク、後半は、テーマ番組を投影しています。観覧の際は、引き続き感染防止にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

冬のテーマ番組「見えない宇宙に挑む」の投影が12月21日から始まります

冬のテーマ番組「見えない宇宙に挑む」が12月21日(水)からはじまります。目で見えない宇宙とはどんな世界なのでしょう？科学の力によって垣間見ることができる宇宙を紹介します。

秋のテーマ番組「スペースコロニー」の投影は12月18日(日)までとなります。

定員25名、要予約で実施中

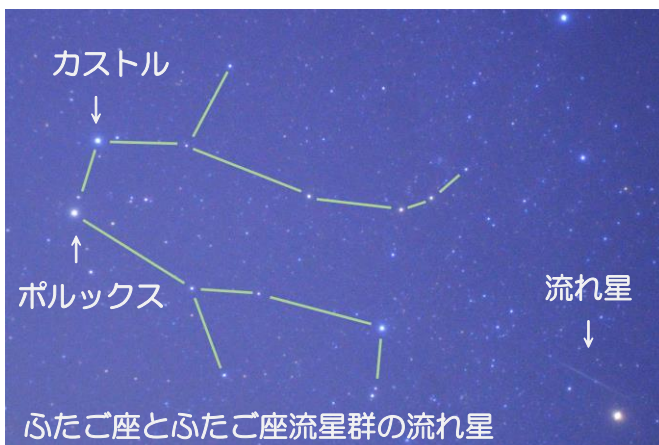
2. 103cm大型望遠鏡で夜間観望会(天体観察会)

103cm大型望遠鏡を使った「夜間観望会」は、現在、曜日に関係なく予約制でおこなっています。新型コロナウイルス感染防止対策として、①定員を25名 ②事前予約 ③マスク着用 ④緊急連絡先の提出 をお願いしていますのでご了承ください。感染防止につきましてはこれまで通りご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。個人の方(お一人からご予約できます)はご利用日の前の開館日・午後5時まで、団体の方は1カ月前までにご予約の上ご利用ください。



12月の注目天体情報

ふたご座流星群は、毎年ある程度の数の流れ星が見られるので楽しむことができます。今年の極大日は12月14日です。午後10時半ごろには月が昇ってきますが、一年をしめくくる流星群を観察してみましょう。



☆見ごろの星座：ふたご座

ふたご座は、誕生星座のなかで最も北寄りにある星座です。そのため、見える期間も長くなります。目印は何といっても双子の兄弟の頭で光り、それぞれの名前がついた兄カストルと弟ポルクスです。どちらも一等星といたいところですが、兄のカストルはわずかに届かず2等星です。望遠鏡では、カストルは同じ明るさの星が寄り添う二重星として見るすることができます。

☆ぎょしゃ座の星団M37

冬の一等星の中で最も早く昇ってくるカペラ。そのカペラから少しいびつな五角形をつないでできるのが「ぎょしゃ座」です。月明かりのない夜には、冬の天の川がうっすらとぎょしゃ座の中を流れているのを確認することができます。この天の川に沿ってぎょしゃ座の中ほどには3つの散開星団M36、M37、M38があり、中でも星の数が多くバランスよく星が集まっているのがM37です。比較的明るい星団なので、天の川が見える夜なら肉眼でも確認ができることがありますが、できれば双眼鏡(口径5センチ、倍率7倍程度)があると良いでしょう。

